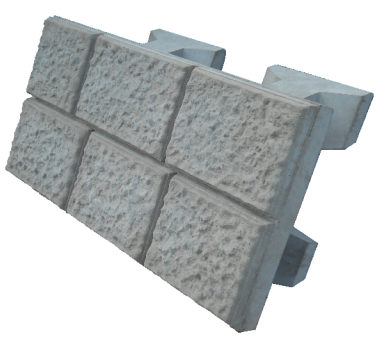
河川における災害復旧のポイント

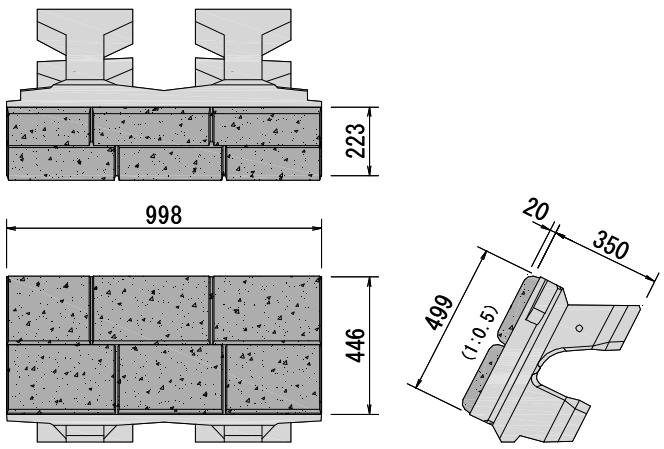
コンクリート系の工法を用いる際には、景観との調和に十分配慮する。また、水際及び背後地を重要な生息空間とする生物が分布している場合は、生物の生息場・繁殖場にも十分配慮するものとする。

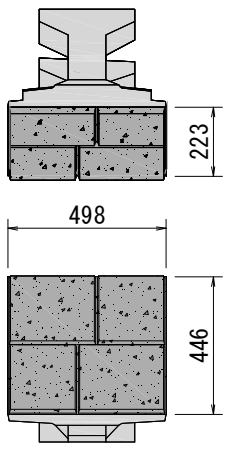
機能	部分	具体的留意事項（コンクリート系）
河川景観	法面部	(1)　護岸を分節して法面を小さく見せる
		(2)　法面の明度・彩度を抑える（明度6以下を目安とする）
		(3)　素材は適切な大きさとする
		(4)　テクスチャーを持たせる
		(5)　忌避される景観パターンを避ける
	水際部	(6)　水際部に植物の繁茂を促して、水際のラインを不明瞭にする
	天端・法肩部	(7)　天端・法肩のラインを不明瞭にする
	その他	(8)　水抜きパイプ、小口止め等
自然環境		(9)　植生基盤となる空隙
		(10)　湿潤状態を確保するための透水性・保水性
		(11)　生物の移動経路を確保

＊リバーソンは上記留意事項に基づいて開発した製品です。

リバーソン







特　長

- 個々のブロック構造目地と模様目地の区別がつきにくいように目地形状を工夫しています。
- 表面は深目地とはつり模様のテクスチャーにより平均明度を5.5に抑えています。
- 天端部は植生ができるよう、控えを天端から下げた位置に設けてあります。
- 2個/㎡の大型積ブロックで、5分勾配で水平積みとなる形状なので、容易に施工ができます。
- カーブ施工が容易にできるような構造です。

法面の明度・彩度

護岸が露出する場合には、法面の明度は6以下を目安とする。

≪解　説≫

- 滑面のコンクリートブロックの明度は9～10と高く、周辺景観との明度差が生じ非常に目立つ存在となる。
- 自然石の明度は、3～6の範囲にあることから、コンクリートブロックについても、明度は6以下を目安とするとよい。

周辺との明度差が大きい護岸
（間知ブロック）

周辺との明度差が小さい護岸
（リバーソン　明度5.5）

テクスチャー

護岸が露出する場合、護岸の素材に適度なテクスチャーを持たせる。

≪解　説≫

- 植物や礫や土、水面などから構成される自然景観はテクスチャーが豊かである。この中に、テクスチャーが乏しい平滑なコンクリート法面があると、法面が浮き上がり、景観を悪化させる。

- コンクリート護岸ブロックの選定に当たっては、表面が適度に粗く、凹凸（陰影）があるものを選定する。

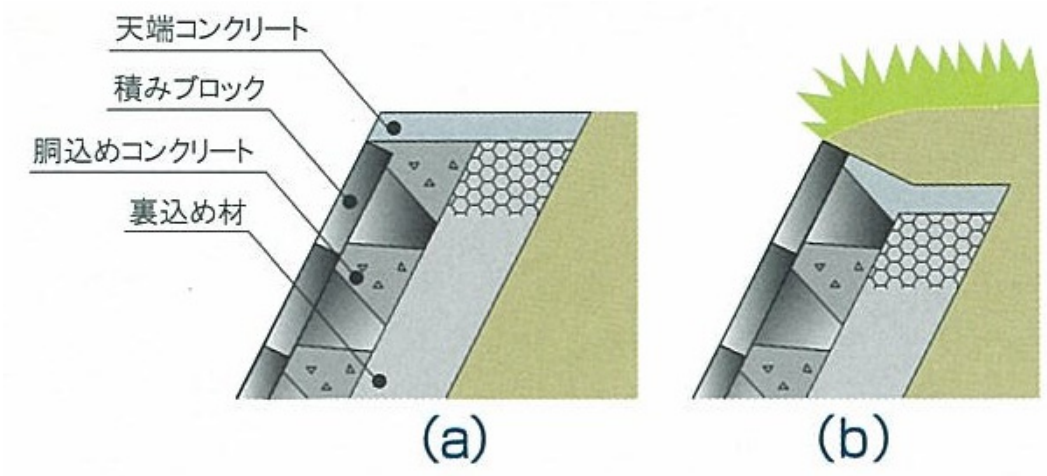
リバーソン
⇒深目地とはつり模様

天端・法肩のライン

天端工は天端コンクリートが目立たないように工夫する。

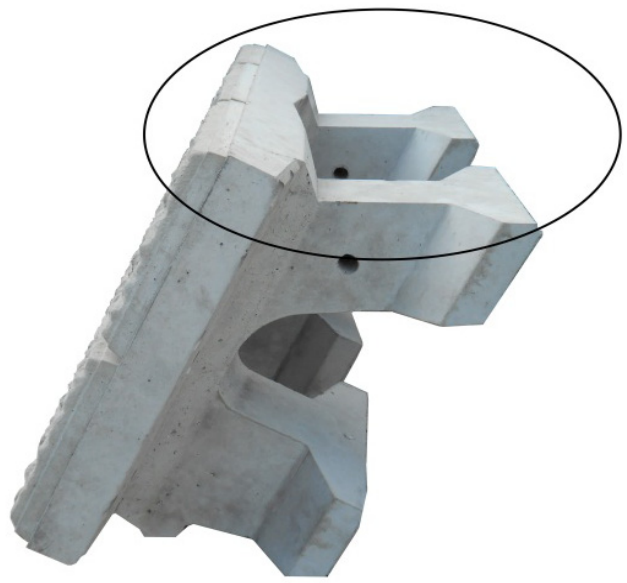
≪解　説≫

・ 天端コンクリートを天端ブロック上面から少し低い位置に打ったり、天端コンクリートをなくしたりして、その上面を土で埋め戻した場合は、天端に草が生えてエッジが和らぐ効果がある。



天端コンクリートは、ブロック上部に10cm程度のコンクリートを打つタイプ（a）が多いが、硬い印象となりやすい。天端ブロック上面から少し低い位置に打つ(b)は、天端に草が生えてエッジが和らぎ、川の表情が大きく変わる。

天端部に植生ができるように、
ブロック控え形状を下げた位置に設置



リバーソン天端形状

水抜きパイプ

水抜きパイプを設置する場合、極力目立たないように工夫する。

≪解　説≫

・ パイプの設置位置をブロックの目地や角に合わせる、ブロックに隠れる位置に設置する、ブロック法面からパイプが飛び出さないように控えるといった配慮を行う。

水抜きパイプを目立たなくした例

・ ブロックからパイプが飛び出さないように控えて、周りのコンクリートが目立たないように工夫している。

通常の水抜きパイプの例

・ ブロックからパイプが飛び出しており、周りのコンクリートも目立っている。